

「認知機能検査進行要領」

1 検査に当たっての事前の指示（概ね1分）

これから検査を始めます。

私の声が聞こえますか。

聞こえたら手を挙げてください。【注①】

検査に当たって

まず、携帯電話をお持ちの方は、検査中に鳴らないよう
マナーモードにするか、電源を切り、

カバンの中やポケットなどにしまってください。【注②】

時計をしている方も、

カバンの中やポケットなどにしまってください。【注②】

字の読み書きに眼鏡が必要な方は出しておいてください。

それでは検査中の諸注意を行います。

問題用紙などは指示があるまでめくらないでください。【注③】

回答中は、声を出さないようにしてください。

質問があったら、手を挙げてください。

回答中に書き損じがあったときは、

二重線でこのように【注③】訂正してください。

よろしいですか。質問はありませんか。

- ① 聞こえていない者がいる場合には、補聴器等を着用させて再度確認し、着用しても十分に聞こえないようであれば、退室させること。

【備考】

その他の受検困難者がいる場合は退室させること。

- ② 携帯電話と時計をカバン等にしまわれた後、机の上等に置いていないことを確認すること。

【備考】

しまわせる説明の際に「時間についての質問があります。」など、しまう前に受検者が時間を覚えてしまうような説明は行わないこと。

- ③ 「諸注意」を掲示するなどして説明する。

諸注意

- 指示があるまで用紙をめくらない。
- 回答中は声を出さない。
- 質問は手を挙げて。
- 訂正は二重線で。

(例) 日本 ~~太郎~~

【備考】

この他、検査を通じて、掲示した「諸注意」を活用して徹底を図ること。

2 検査結果等に関する説明（概ね1分30秒）

それでは、本日の検査について説明します。

年齢が高くなるほど運転に必要な記憶力、判断力などの認知機能が低下すると言われています。

そこで、75歳以上の方の免許証更新の際に、記憶力、判断力に関する検査を行い、自分の状態を理解していただくこととなります。

また、検査の結果から、皆さん一人一人にあった高齢者講習を行います。

なお、検査の結果から、記憶力、判断力が低くなっているとされても、直ちに免許が取り消されることはありませんが、警察から連絡があり、お医者さんの診断を別に受けていただくこととなります。

検査は、私が順番に説明して進めます。
よく聞いてください。

検査は30分ほどで終わります。

検査の結果は、検査が終わったら皆さんにお伝えします。【注①】

また、警察に検査の結果を連絡します。【注②】

それ以外には、検査の結果を連絡することはありません。

【備考】

- 認知機能検査を受検する高齢者の多くは、認知機能の低下も見られない優良運転者であることを十分に念頭に置き、実施に当たっては、長年の安全運転に敬意を表し、受検者それぞれの心情に配慮しながら、その目的や必要性について丁寧な説明がなされるよう特段の配慮をすること。
 - 認知機能が低下した者には回答が困難な検査であることから、「誰でも簡単にできる。」等、受検者の心情を害する可能性のある説明は行わないこと。
 - 検査目的・検査結果の取扱い等についてプロジェクトを使用するなど可能であれば視覚的な教示も併せて行うこと。
- ① 検査の結果を後日通知する場合には、「検査の結果は、後日通知されます。」などと説明すること。
- ② 公安委員会において、直接実施する場合は、「また、警察に検査の結果を連絡します。」の部分を省略すること。

これから検査用紙を配ります。

検査実施中は、私が「めくってください」と言うまでは
用紙をめくらないでください（検査用紙を配る。）。

検査用紙はお手元にありますか。

眼鏡が必要な方は、眼鏡をかけてください。

表紙に書かれている文字が読めますか。

読めない方は手を挙げてください。

3 表紙の記載（概ね1分30秒）

検査用紙への記入をします。

表紙

最初は「名前」です。

ご自分の名前を記入してください。

ふりがなはいりません。

間違えたときは、二重線で訂正して書き直してください。

消しゴムは使えません。【注①】

以後も検査中の間違いは、同じようにしてください。

① 間違えた際の二重線の訂正方法は、諸注意を利用し、再度、受検者に理解しやすいように行うこと。

次は「生年月日」です。

ご自分の生年月日を記入してください。【注②】

② 自分の生年月日が分からない場合には、検査員が免許証で確認の上、受検者に記入させること。

次は「性別」です。

当てはまる方に○をつけてください。

○は、数字でも文字でも構いません。

次は、普段の車の運転状況です。

どのくらいの頻度で車の運転をしていますか。

当てはまるものに○をつけてください。

○は、数字でも文字でも構いません。

書けた方は、鉛筆を置いてください。【注③】

③ この段階で全員が記入したかどうかを確認する。

これから検査を始めます。

各検査のはじめに

私から検査について説明をします。

説明の後、皆さんに分からない点があるかどうか伺います。

無ければ、検査を始めますが、

私が指示するまで用紙をめくらないでください。

答を書いているときは、声を出さないでください。

回答中、質問があったら、手を挙げてください。

何か質問はありますか。【注④】

- ④ 受検者の様子を確認し、質問したいことがありそうな受検者に対しては、質問がないかどうか声をかけること。

4 時間の見当識の実施（概ね3分）

最初の検査を始めます。

用紙をめくってください。

「問題用紙1」です。【注①】

用紙には、

この検査には、5つの質問があります。

左側に質問が書いてありますので、

それぞれの質問に対する答を

右側の回答欄に記入してください。

答が分からない場合には、

自信がなくても良いので思ったとおりに記入してください。

空欄とならないようにしてください。

と書いてあります。

よく分からない場合でも、

できるだけ何らかの答を記入してください。

空欄とならないようにしてください。【注②】

【検査の目的】

現在の自己及び自己がおかれている状況を検査するもので、時間の見当識は、受検者が自らがおかれている時を正しく認識しているかについての検査である。

問題用紙1

回答用紙1

【備考】

時間の見当識の検査を説明する際、回答用紙1を受検者に提示して説明しないこと。

① 各受検者の用紙を確認

② 空欄の場合には誤答として評価され、総合点に影響することから、分からない場合にも、できるだけ記入させること。この場合、空欄がある受検者に対しては、個別に指示することはせず、受検者に対する説明として回答の記載を促すこと。

質問の中に「何年」の質問があります。

これは「なにどし」ではありません。

干支で回答しないでください。

「何年」の回答は、

西暦で書いても、和暦で書いても構いません。

和暦とは、元号を用いた言い方のことです。【注③】

何か質問はありますか。

用紙をめくってください。

「回答用紙1」です。

鉛筆を持って、始めてください。

(2分間計測、検査員は検査日時を控える。)

【注④】

※ 「空欄があるので書いてください。」

※ 「書き直し等はありませんか。」

(確認し、無ければ時間前であっても終了可)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

③ 「年」の回答については、西暦でも和暦でも構わないが、さらに「平成何年ということですか。」や「2007年ということですか。」という質問があった場合も、「そのとおりです。」とか、「二千何年ですね。」「平成何年ですね。」と受検者にヒントを与えるような回答はせず、「西暦でも和暦でも構いません。」と回答すること。

和暦の意味について受検者から質問があった場合も、「平成〇〇年です。」という言い方ではなく、「明治、大正、昭和などの元号を用いた言い方です。」などと回答すること。

【備考】

時間について「正確な時間が分からない。」などの質問があった場合は、「想像で書いてください。」「だいたいで構いません。」などと回答すること。

④ 回答漏れがないかどうかの注意喚起を受検者の様子を見て「空欄があるので書いてください。」などを行う。

また、時間の見当識については、全員が計測時間内に回答の記載を終えている場合は、終了しても問題ないか確認し、書き直し等がない場合は計測時間終了前であっても終了して良い。

5 手がかり再生の実施（全体で概ね14分）

(1) イラストの記憶（概ね5分）

次の検査を行います。

用紙は、指示があるまでめくらないでください。

これから、いくつかの絵を見せますので、
こちらを見ておいてください。

一度に4つの絵を見せます。

それが何度か続きます。

後で、何の絵があったかを
全て、答えていただきます。
よく覚えてください。

絵を覚えるためのヒントも出します。

ヒントを手がかりに
覚えるようにしてください。【注①】

絵が見にくい場合は、
手を挙げて、お知らせください。
何か質問はありますか。

【検査の目的】

手がかりをもとに記憶を再生する検査で、16枚の絵を記憶させ、一定の時間経過（介入課題）の後、どれだけ再生できる（記憶している）かの検査である。

【備考】

- イラストが小さい、後方に座っている受検者が確認しにくいなどの対策のため補助者も検査員の進行に合わせて受検者の近くで同じイラストを掲示するなど、受検者がイラストを確認しやすくなるように工夫すること。
 - ラミネート加工しているものは光の反射で絵が見にくくなる場合もあるので掲示方法に注意すること。
- ① この検査では、記憶させるときの手がかりと記憶を再生するときの手がかりが同じであることを前提とした検査であることから、最初に与える手がかりは必ず本要領に記載のとおりのものですること。

(イラストを掲示し、別添2に従い実施する。)

(イラストを隠す。)

いかがでしたか。

後で何の絵があったのかを答えてもらいますので、
よく覚えておいてください。

【備考】

- 別添2のパターンA、パターンB、パターンC、パターンDのうち任意の1パターンのイラストを、受検者全員が見やすいように示し、パターンに応じ、別紙に示す順序で行う。
- 時間は1枚につきおおむね1分で行う。

(2) 介入課題 (概ね2分)

それでは、別の課題を行います。

用紙をめくってください。

「問題用紙2」です。

用紙には、

これから、たくさん数字が書かれた表が出ますので、私が指示をした数字に斜線を引いてもらいます。

例えば、「1と4」に斜線を引いてくださいと言ったときは、『表の中から「1と4」の数字を見つけて1行目から』と例示のように順番に、見つただけ斜線を引いてください。

と書いてあります。

何か質問はありますか。

問題用紙をめくってください。

数字がたくさんある

「回答用紙2」です。

行は、なるべくとばさないように

気をつけてください。

【検査の目的】

手がかり再生の出題から回答までに一定時間を空けることが目的の課題である。

問題用紙2

回答用紙2

【備考】

回答時間が長くなると手がかり再生の回答に影響を及ぼすことから、時間は正確に計測し、介入課題の時間を厳守すること。

「○と○」に斜線を引いてください。【注①】

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで30秒間計測) 【注②】

やめてください。

次は、同じ用紙に、はじめから

「○と○と○」に斜線を引いてください。【注③】

始めてください。

(ストップウォッチで30秒間計測)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

① 1回目は、2つの数字を指定する。受検者が理解しやすいようにホワイトボードを利用して削除する数字「1、4」等と書いても構わない。

削除する数字は、その都度変更して行う。

② 時間を厳守し、回答用紙2の記載が30秒以内にできない場合であっても、次に進むこと。

③ 2回目は、①で使用した用紙に①で指定した数字以外の3つの数字を指定して行う。

(3) 自由回答 (概ね3分30秒)

用紙をめくってください。

「問題用紙3」です。

用紙には、

少し前に、何枚かの絵をお見せしました。
何が描かれていたのかを思い出して、
できるだけ全部書いてください。

と書いてあります。

回答の順番は問いません。

思い出した順で結構です。

「漢字」でも「カタカナ」でも「ひらがな」でも構いません。
書き損じた場合は、二重線で訂正してください。

何か質問はありますか。

用紙をめくってください。

「回答用紙3」です。

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで3分間計測)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

【検査目的】

1回目は、手がかりなしで再生を実施し、記憶力を検査する。

問題用紙3

回答用紙3

【備考】

受検者が手がかり再生の自由回答を記載中に質問があっても、受検者に「動物」「体の一部」などのヒントを言わず「先ほどお見せした絵について回答を書いてください。」と説明すること。

(4) 手がかり回答 (概ね3分30秒)

用紙をめくってください。

「問題用紙4」です。

用紙には、

今回は回答用紙の左側に、ヒントが書いてあります。
それを手がかりに、もう一度、何が描かれていたのかを
思い出して、できるだけ全部書いてください。

と書いてあります。

それぞれのヒントに対して回答は一つだけです。

二つ以上は書かないでください。

「漢字」でも「カタカナ」でも「ひらがな」でも構いません。
書き損じた場合は、二重線で訂正してください。

何か質問はありますか。

用紙をめくってください。

「回答用紙4」です。

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで3分間計測)

やめてください。

鉛筆を置いてください。

【検査目的】

2回目は、手がかりをもとに再生を実施し、記憶力を検査する。

問題用紙4

回答用紙4

6 時計描画の実施（概ね2分）

次の検査を行います。

用紙をめくってください。

「問題用紙5」です。

用紙には、

この検査では、時計を描いてもらいます。
最初に、時計の文字盤を描いてもらいます。
大きな円を描いて、
円の中に数字を全部書き込んでもらいます。
後で時間を指定しますので、
その時間を示すように時計の針を描いてもらいます。

と書いてあります。

描き間違いをした場合は、
代わりの用紙を渡しますので
手を挙げて知らせてください。

何か質問はありますか。

【検査の目的】

空間把握能力（物の位置を把握する能力）について時計描画（指定する時間の記載を含む。）を検査する。

問題用紙5

回答用紙5

【備考】

- 時計の文字盤とは何かについて質問があった場合、「1から12までの数字が書いてあるものです。」等と具体的に説明せず、「普通の時計のことです。」等と説明すること。
- 受検者から記載した回答についてこれで良いのか等の質問があった場合、「そうです。」等、正誤に関しては回答せず、「思ったとおりで良いです。」等と回答すること。
- 「○の真ん中にへそ(点)をつけてください。」や「バランス良く描いてください。」等数字の配列に影響を与える説明はしないこと。
- 出題時に針の位置を示す様な姿勢をとらないように注意すること。

用紙をめくってください。

「回答用紙5」です。

時計の文字盤を描いてください。

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで1分間計測)【注①】

やめてください。

鉛筆を置いてください。

次に、今描いた時計の文字盤に、

時計の針を描き込んでもらいます。

針はなるべく、線で描くようにしてください。

描き間違えた場合は二重線を引いて訂正してください。

それでは、「〇時〇分」を指すように、【注②】

描いてください。

鉛筆を持って、始めてください。

(ストップウォッチで30秒間計測)【注③】

やめてください。

鉛筆を置いてください。

① 文字盤の回答の際、記載を誤った場合で余白に書き直すことができない場合は、新しい用紙を交付すること。

また、限られた時間内の実施のため、新しい用紙を迅速に渡すことができるよう準備しておくこと。

② 説明の内容中「〇時〇分」には「11時10分」、「1時45分」、「8時20分」、「2時45分」の中から、任意に選んで出題すること。

③ 記載が遅れている受検者に対して記載を促す場合は、「もう少しで終了です。」と全体に対して促し、個別に受検者を促すようなことがないようにすること。

7 検査用紙の回収から検査結果の通知（概ね7分）

回 収

以上で検査は終了です。

検査用紙の回収を行います。

採 点

いまから検査の採点を行い、採点結果を個別にお伝えします。

通 知

検査結果が書かれている書面を個別に渡します。

書面には、名前や総合点、

総合点による判定結果や、

判定結果に応じた助言が書かれています。

総合点によって、

記憶力・判断力が低くなっている方、

記憶力・判断力が少し低くなっている方、

記憶力・判断力に心配のない方

と判定がされています。

この検査は、簡易に確認するものです。

検査の結果、

記憶力・判断力が低くなっているとされた方は、

直ちに認知症であるというわけではありませんし、

直ちに免許が取り消されることもありません。

ですから、免許証の更新をすることはできます。

ただし、警察から連絡があり、医師の診断を受けていただく

こととなります。

【備考】

- 検査用紙をすべて回収し、枚数を確認する。
- 受検者の用紙が混雑しないように回収に注意する。

- 採点中にトイレなどに行かせることは可。

- 検査結果を後日通知する場合は、別添8を用いて、判定や計算等について説明すること。

- 個人を間違わないように確認しながら通知する。

- 検査結果を通知する書面を封書に入れるなどして、受検者1人ずつに交付し、受検者全員に書面が交付されているか確認する。

その結果、医師から認知症であると診断された場合は、公安委員会の判断で、免許が取り消され、又は停止されます。ご自身でも、医師や家族にご相談されることをお勧めします。

書面の裏面には、採点方法や総合点による判定について記載しています。後でご覧ください。

今後受けていただく高齢者講習は、この結果に基づいて実施します。高齢者講習を受講する際には、認知機能検査結果通知書を必ず持参してください。

なお、検査は再び受けることができます。再び検査を受けたい方や、検査結果について不明な点がある方は、後で質問されるか、警察の運転免許の担当係に相談してください。【注①】

認知機能検査はこれで終了です。

① 公安委員会が直接実施する場合は、「警察の」を省略し、「運転免許の担当係に相談してください。」と説明すること。